

基本方針	重点施策（案） （Nextふくしま重点12（トゥエルブ））	取り組み内容のイメージ （令和2年度ベース）	令和2年4月27日有識者懇談会からの主な意見（書面開催）
① 子どもが 広がる まち	(1) えがおあふれる 子ども・子育ての新ステージの実現	子どものえがお条例（仮称）に基づく取り組みや特色ある幼児教育・保育の推進、ICT教育・プログラミング教育の推進、グローバル化に対応する教育の推進、読書活動の充実など、子どもたちの未来が広がるまちに向けた取り組み。	<p>○福島市で子育てをしたいと思うような施策、地域全体で子育てする社会風土の醸成。</p> <p>○妊娠、出産、子育ての支援（サポート）体制の強化。</p> <p>○子育て世代同士、各世代間の交流により、「助け合い」「お互いさま」の精神を育む。</p> <p>○IT化をはじめとする時代のニーズにあった豊かで質の高い学習環境の整備と格差のない教育機会の確保。</p> <p>○地域を学び、誇りを持ち、新しいもの（こと）を創造できる教育。</p> <p>○学年や学校を超えた交流など、「多様性」を生む環境づくり。</p> <p>○子育てや教育を担う人材の確保と質の向上、待遇の改善。</p>
② 暮らしを 支える まち	(2) 放射線対策・風評払拭など復興の総仕上げ	放射線健康管理、心のケア、農産物や観光分野等における風評払拭など、復興の総仕上げに向けた取り組み。	<p>○市民の暮らしに丁寧さを欠くことなく、「風評払拭」等に引き続き尽力すべき。</p> <p>○全ての市民が安心して暮らせるよう、健康、医療、衛生などの知識を得る施策が必要。</p>
(3) 自然災害に負けない危機管理体制の強化	水害対策パッケージ、災害対策オペレーションシステム、防災情報の多重化、地域防災力の強化、避難行動の支援、消防力の充実強化など、災害に強いまちづくりに向けた取り組み。	<p>○気候変動にも対応した地域の防災・減災意識を高める取り組みの強化。</p> <p>○災害情報を市民に的確、迅速に伝える新しい仕組みづくり。</p>	
(4) 安心して暮らせる福祉と医療体制の充実・強化	感染症予防対策（コロナ対策含む）の推進、健都ふくしまの創造（受動喫煙対策、がん検診受診率向上等）、高齢者の元気の創造、バリアフリー推進パッケージ（ハード・ソフト両面）、地域医療・救急医療の確保など、誰もが住みやすいまちに向けた取り組み。	<p>○新型コロナウイルスを踏まえた新しい感染症対策。</p> <p>○医療体制の充実強化。</p> <p>○高齢者、障がい者、外国人への支援。</p> <p>○超高齢化社会を見据えた、互いに支え合う地域づくりの推進。</p>	
③ 次世代へ つなぐ まち	(5) 福島から発信！新しい文化芸術の創造	古閑裕而のまち・ふくしまシンフォニーを中心に市民の地域への誇りと愛着を育みながらより多くの人を引きつける新たな文化の創造に向けた取り組み。	<p>○新たな文化の創造に向け、今ある文化の定着と認知度を高める。</p> <p>○世代間交流の充実により、次世代へ豊かな文化が繋がる。</p> <p>○各家庭、地域でできない世代間交流を行政が施策として取り組む。</p> <p>○文化を通じた都市間交流、交流人口の拡大。</p> <p>○市民一人ひとりが”つなぐ”当事者意識を持つ方向づけが必要。</p>
(6) SDGsに貢献する持続可能な環境の実現	水素社会の実現、森林環境の整備（森林環境譲与税の活用）、再生可能エネルギーの導入推進、ごみ減量大作戦、良質な水道水の安定供給など、次世代へ環境をつなぐまちに向けた取り組み。	<p>○地域の特性（自然環境、景観等）に合わせた、再生可能エネルギー等の導入の促進。</p> <p>○市民一人ひとりが”つなぐ”当事者意識を持つ方向づけが必要。</p>	
④ 産業と 活力を まみ	(7) 「人」と「活力」であふれる産業のグレードアップ	気候変動に対応した農業の強化や加工食品の産業化など農業振興をはじめ、新創業者等への支援や新製品開発等への支援など商工業の振興や雇用対策など活力あふれ躍動するまちに向けた取り組み。	<p>○新たな産業クラスターの創出や企業の発展による雇用創出により、「人が住み続けられる」賑わいをつくる。</p> <p>○IT企業や起業家、エンジニア等が首都圏ではなく地方で仕事をしたいと考える動きがあり、豊かな自然や観光資源があり、首都圏との時間的距離が近い福島市に、事務所やワークスペースを誘致できる可能性がある。</p> <p>○商工会や産業界、大学の連携強化による、新たな推進力の模索。</p>
(8) 「花」と「音楽」があふれる交流人口の拡大	インバウンド受け入れ体制の強化、ふくしま花回廊の推進、フィルムロケの誘致、道の駅整備、温泉地の魅力の向上、古閑裕而のまち・ふくしまシンフォニーの展開による交流人口拡大に向けた取り組み。	<p>○文化を通じた都市間交流、交流人口の拡大。</p> <p>○周辺市町村と連携した広域観光の推進。</p> <p>○福島駅東口の再開発を中心とした、行って楽しい新しい中心市街地をつくる。</p>	
(9) 風格ある県都にふさわしいまちなか回遊性の向上	パセオ通りから信夫山までの信夫山ストリートの形成や駅前通りのイベントなど、人がまちなかを回遊する仕掛けづくり（ハード・ソフト両面）。	<p>○文化を通じた都市間交流、交流人口の拡大。</p> <p>○周辺市町村と連携した広域観光の推進。</p> <p>○福島駅東口の再開発を中心とした、行って楽しい新しい中心市街地をつくる。</p>	
⑤ 新世代 発信 まち	(10) 市民との共創による新しいまちづくりの実現	今年度「協働」から「共創」に改定するまちづくり指針や現在策定を進める「地域の個性を生かしたまちづくり計画」などに基づく取り組み。	<p>○市と市民が語り合う場、市民同士が活動する場、誰でも提案・挑戦できる環境等をつくる。</p> <p>○若い世代を市政に参画させて当事者意識を育むことが必要。若い世代は発信力もある。</p> <p>○若者が集い、チャレンジすることができる魅力あるまちづくり。</p> <p>○「よそ者」に市政に参画してもらう施策により、新しい人材の確保や交流・定住人口の増加が図られ、まちの賑わい創出に繋がる。</p> <p>○商工会や産業界、大学の連携強化による、新たな推進力の模索。</p>
(11) 世界への挑戦・発信による都市ブランド力の向上	移住希望者や定住者のライフスタイルに沿った積極的な支援による本市への移住・定住促進などに向けた取り組み。	<p>○文化を通じた都市間交流、交流人口の拡大。</p> <p>○周辺市町村と連携した広域観光の推進。</p> <p>○福島駅東口の再開発を中心とした、行って楽しい新しい中心市街地をつくる。</p> <p>○新たな産業クラスターの創出や企業の発展による雇用創出により、「人が住み続けられる」賑わいをつくる。</p> <p>○IT企業や起業家、エンジニア等が首都圏ではなく地方で仕事をしたいと考える動きがあり、豊かな自然や観光資源があり、首都圏との時間的距離が近い福島市に、事務所やワークスペースを誘致できる可能性がある。</p> <p>○「よそ者」に市政に参画してもらう施策により、新しい人材の確保や交流・定住人口の増加が図られ、まちの賑わい創出に繋がる。</p> <p>○人口のバランスが大切であり、生産年齢人口、若者、出生者数の人数を増やす施策が、新ステージへの挑戦になる。</p> <p>○情報発信力をさらに高める大胆な戦略をまとめる。</p>	
⑥ 行質効 率的 高い 経費 削減	(12) ICTを活用した先進的市民サービスの充実	LINE活用、マイナポイント設定支援、市税のキャッシュレス化、Access活用などICTを活用した市民サービスの向上に向けた先進的な取り組み。	

基本方針	重点施策（案） （Nextふくしま重点12(トウエルブ)）	（市民が望む理想の未来の姿）		（現在の人口減少・地域活性化対策）	（課題・弱み）	
		Yu-Me(ゆめ)会議からの主な意見	H30市民アンケート調査結果 （「将来の目指すまち」上位半数等）	総合戦略の位置づけ （4つの基本目標・基本的方向）	後期基本計画の施策指標進捗 （R元実績の主なD評価(進捗40%未満)）	【統計資料】・※トピック
① 未来が広がるまち	(1) えがおあふれる子ども・子育ての新ステージの実現	【第5回】 ◇福島市が子育てしたいまちランキング日本一！ ◇子ども 新たな福島を切り拓く ◇福島人口増加日本一	1位:子どもを産み・育てやすい、子育てサポートが充実したまち(54.5%) 7位:将来の担い手を育成する、教育が充実しているまち(35.6%)	2 安心して結婚・出産・子育てのできるまちへ（結婚・出産・子育ての切れ目のない支援）	・子育てに自信が持てない親の割合 ・学力検査における児童生徒の平均偏差値(小学校・中学校) ・新体力テストの全国平均値達成率	【中核市行政水準調べ30.3.31現在】 ・合計特殊出生率:1.45(中核市平均1.46) ・年少人口(15歳未満)比率:11.9%(中核市平均12.8%) ・不登校生徒数(生徒1千人あたり):45.94人(中核市平均35.95人)
	(2) 放射線対策・風評払拭など復興の総仕上げ	【第4回】 ◇Fukushimaが世界で有名 ⇒知名度を活かして様々なPR ◇安全でおいしい農産物 ⇒厳しい放射能検査でとても安全な農産物をPR	【復興の状況】 ・復興が進んだと感じている(58.9%) ・復興が進んでいない進んでいないと感じている(28.6%)	4 安心できる、住んでよかったと感じられるまちへ（より安心できるまち）		※令和3年度～令和7年度国の「第2期復興・創生期間」
	(3) 自然災害に負けない危機管理体制の強化	【第5回】 ◇誰でも参加 避難訓練開催	3位:防災・防犯対策が充実した、安全で安心して暮らせるまち(46.3%)	4 安心できる、住んでよかったと感じられるまちへ（より安心できるまち）	・「避難行動要支援者(災害時要援護者)防災対策推進事業」地域支援者選定率	※令和元年度台風19号による災害 ※新型コロナウイルス感染症の拡大(新しい生活様式)
	(4) 安心して暮らせる福祉と医療体制の充実・強化	【第5回】 ◇福祉のまち ふくしま ◇子どもからお年寄りまで住みやすいまち	2位:健康づくりや福祉が充実した、高齢者や障がい者など誰もが暮らしやすいまち(51.2%)	4 安心できる、住んでよかったと感じられるまちへ（より安心できるまち）	・喫煙者の減少 ・子宮がん検診を受診する人の割合の増加(20～69歳)	※新型コロナウイルス感染症の拡大(医療体制) ※東京2020大会の開催と将来に向けたレガシー
③ 次世代へ文化とまち	(5) 福島から発信！新しい文化芸術の創造	【第4回】 ◇観光 ⇒古閑裕而ブームを起こす 【第5回】 ◇理想の福島駅前(古閑裕而の曲が流れる)	【誇りや自慢(自由記述)】 古閑裕而記念館や美術館などの文化芸術、史跡や神社などの歴史	3 人に選ばれ、活気あふれる魅力多いまちへ（何度でも訪れたいまち）	・音楽堂利用者数 ・民家園入園者数	※名誉市民古閑裕而氏をモデルにした連続テレビ小説「エール」の放映と将来に向けたレガシー
	(6) SDGsに貢献する持続可能な環境の実現	【第4回】 ◇花見山、自然を活かした景観、豊かな自然 ⇒きれいな写真をSNSで発信、巡るツアー	4位:緑が豊かな山やきれいな川を大切に、自然と共生できるまち(44.6%)	4 安心できる、住んでよかったと感じられるまちへ（より安心できるまち） （住みよいまち）	・リサイクル率 ・エネルギー自給率	【中核市行政水準調べ30.3.31現在】 ・市民1人1日あたりの資源物以外のごみ排出量:1129.87g(中核市平均808.53g)
④ 産出する活力をまみ	(7) 「人」と「活力」であふれる産業のグレードアップ	【第4回】 ◇温泉、くだもの等の魅力的な素材 ⇒ふくしまブランドを確立、市民全員がPR、広報強化 ◇駅前がさびしい、まちなかに活気がない ⇒若者や高齢者が集える場所、イベントや商業施設の充実	5位:各種産業(農業、商業、工業など)が盛んで、地域経済が活性化するまち(41.0%)	1 産業の活力を向上させ、安心して働き続けられるまちへ（地域企業の振興と企業誘致による地域経済の活性化） (若者が希望を有する農林業の確立) (活力あふれる商業振興) (希望に合った職業等の情報の発信・提供)	・中心市街地空き店舗数 ・「就職支援相談窓口事業」 ・就職斡旋採用人数 ・製造品出荷額等	【中核市行政水準調べ30.3.31現在】 ・有効求人倍率:1.25倍(中核市平均1.38倍)
	(8) 「花」と「音楽」があふれる交流人口の拡大	【第5回】 ◇年間観光客数目指せ1000万人！ 海外や他県の方が福島市に集結！ ◇外国人訪問者数が月間30万人突破！	8位:観光資源(温泉、名所・旧跡、景観など)を活かした、交流が盛んなまち(31.8%)	1 産業の活力を向上させ、安心して働き続けられるまちへ 3 人に選ばれ、活気あふれる魅力多いまちへ（何度でも訪れたいまち）	・観光客入込数 ・花をテーマにした観光客誘致 ・市内温泉地宿泊客数	※福島駅東口再開発
	(9) 風格ある県都にふさわしいまちなか回遊性の向上	【第5回】 ◇福島市内の路線バスが生まれ変わる！ 【第4回】 ◇駅前がさびしい、まちなかに活気がない ⇒若者や高齢者が集える場所、イベントや商業施設の充実	8位:観光資源(温泉、名所・旧跡、景観など)を活かした、交流が盛んなまち(31.8%)	1 産業の活力を向上させ、安心して働き続けられるまちへ（活力あふれる商業振興） 4 安心できる、住んでよかったと感じられるまちへ（住みよいまち）	・中心市街地二輪車通行量 ・レンタサイクル事業(利用者) ・中心市街地空き店舗数	※福島駅東口再開発
⑤ 新挑戦・発信するまち共創	(10) 市民との共創による新しいまちづくりの実現	【第4回】 ◇人が穏やかで素直、人が優しい ⇒人がつながるわかづくり、隣近所の対話を深める	【まちづくりへの参加】 ・時間的な制約はあるものの、まちづくりに参加したい、関心がある(73.9%)	4 安心できる、住んでよかったと感じられるまちへ（住みよいまち）		※総合計画Yu-Me(ゆめ)会議の開催
	(11) 世界への挑戦・発信による都市ブランド力の向上	【第5回】 ◇福島人口増加日本一 ◇世界が注目するFukushima 【第4回】 ◇温泉、くだもの等の魅力的な素材 ⇒ふくしまブランドを確立、市民全員がPR、広報強化 ◇PR発信力がない、他県・他市への情報発信 ⇒誰に向けて何の目的で発信するか明確にする	6位:県都・県北の中心都市として周辺地域と連携し、共に活性化するまち(37.0%)	3 人に選ばれ、活気あふれる魅力多いまちへ（何度でも訪れたいまち） (人に選ばれるまち) (全国にファンを広げるまち)	・市ホームページ(トップページ) アクセス件数(年間)	【地域ブランド調査2019】 ・魅力度ランキング: 県内4位、中核市44位、全国287位 【中核市行政水準調べ30.3.31現在】 ・社会動態数(市民1千人あたり): △2.96(中核市平均0.30) ・生産年齢人口(15～64歳)比率:59.3%(中核市平均59.6%)
⑥ 行質効財の率政高的経いで営	(12) ICTを活用した先進的の市民サービスの充実	【第5回】 ◇AIの世界的企業誘致から5年		1 産業の活力を向上させ、安心して働き続けられるまちへ（society5.0時代のスマートシティの推進）		※令和元年度台風19号による災害(罹災証明書発行) ※新型コロナウイルス感染症拡大(特別定額給付金の事務処理)